

### 第3回旭川市学校教育基本計画懇話会 会議録

---

日 時 令和6年2月15日（木）午後6時～午後7時15分

場 所 旭川市総合庁舎4階 教育委員会室

出席者 参加者10名

青木氏，伊東氏，岡本氏，小野氏，川邊氏，工藤氏，菅原氏，西森氏，宮岸氏，  
目良氏，（50音順）

事務局6名

品田学校教育部長，石原学校教育部次長，末木学校教育部次長，  
田村教育政策課主幹，朝倉教育政策課主査，道下教育政策課主査

傍聴者 なし

資 料 資料1 「第2期旭川市学校教育基本計画（改訂版）（案）」に対して寄せられた御  
意見と市教委の考え方

資料2 「第2期旭川市学校教育基本計画（改訂版）（案）」に対する庁内意見と反  
映状況

資料3 第2期旭川市学校教育基本計画（改訂版）

---

### 第3回旭川市学校教育基本計画懇話会 次第

1 開 会

2 議 題

（1）第2期旭川市学校教育基本計画（改訂版）について

（2）その他

3 閉 会

## 会議録（要旨）

### 1 開 会

### 2 議 題

#### （1）第2期旭川市学校教育基本計画（改訂版）について

進行役 本日は、議題1の「第2期旭川市学校教育基本計画（改訂版）について」、参加者の皆さんから御意見をいただきたい。議題1について、事務局からの説明をお願いします。

事務局  
進行役 （資料1について説明）

ただいま説明のあった点について、パブリックコメントや学校教育基本計画についてなど、皆さんからの御意見を願います。

参加者 改訂により、より充実した学校教育基本計画となったのではないかと思います。

第2期旭川市学校教育基本計画の目指す子ども像が、実り多い子どもたちの育成となるためには、この計画が理解され、効果的に運用されることが大事であり、学校の責任も大きいと感じているところである。

学校は人との関わりあいを通しての学びの場であり、コロナ禍で制限のあった4年間を乗り越え、これからはこの計画にあるように、例えばコミュニケーション能力の育成や協働的な学びなども実施していけるようになると期待している。先日、新1年生を迎える行事で、4年ぶりに在校生と交流する機会を設けており、新1年生となる子どもたちに優しく接する在校生の姿を見て、これからは交流を通しての学びの場が広がり、好循環となっていくと感じたところである。

また、家庭や地域との連携も重要であると感じており、学校内の情報を保護者や地域に発信し、協働していくことが必要と考えている。保護者や地域と学校が志を同じくし、信頼する関係であるためには、教員が余裕を持って子どもに向かい合う必要があることから、働き方についても意見を出させていただいたが、そういった点についても今後は学校から発信する機会も増えていくと思う。また、保護者や地域に発信することで、この計画が推進されていくことを期待している。

参加者 改訂版に掲載されている、学校教育基本計画の体系について、目標と基本施策、取組が非常に分かりやすいため、学校でも参考とさせていただきたいと思う。

これからの時代は予測不能でどんなことが起きるか分からない時代であり、生きていくために、基本施策の、学力や豊かな心、多様性、個性を伸ばす教育が大事であることを改めて感じている。

学力については、記憶を定着させるためには反復、繰り返しが必要であり、また、得た知識を活用して発信することでより長く記憶が定着するという講演を先日受け、学校でも基礎基本を身につけさせることはもちろん、発信して伝えることについても重視していく必要があると感じたところである。

豊かな心については、人間関係づくりがうまくいってない子どもたちがいると感じているが、グループエンカウンターを実施しており、意見を否定しない話し合いをすることで、自分の意見を言っても大丈夫という空気づくりに取り組んでいる。学級の居心地の良さが学力や体力の向上に関わっており、居心地が悪いと力が付いていかないので、そういった活動を通して他者を理解できる力が身に付き、良い効果が生まれるのではないかと考えている。

計画で目標とする指標についても、学校でもその目標に到達するために取り組み、またその結果どうだったのか、振り返り次につなげていく必要があると思うので、指標を参考に、学校づくりを進めていきたいと考えている。

参加者 今回参加させていただき、子どもたちの教育を考える上で勉強にさせていただいた。パブリックコメントについては、提出意見が少なかったことは残念に思う。旭川市民皆さんに考えていただき、多くの方から意見をいただけたら良かったと思う。

今回の計画には目標値が設定されているが、平均値で表せない部分もあり、支援が必要な子どもたちを救えるよう、数値だけにこだわることなくこの計画を推進してほしいと思う。

また、クーラーについては、旭川の学校に設置しなければならない状況となることは、1年前には予想できなかったことであり、温暖化の影響が、身近な教育現場に関わってきたことと思う。昨年は生死に関わるような暑さであり、命は児童生徒の最優先事項として、教育環境を整えることは重要だと考えている。

進行役  
事務局

事務局からご意見は。

パブリックコメントの意見数については、今回3件いただいており、件数だけで評価できるものではないが、我々も工夫していけたらと考えている。また、計画改訂に当たっては、市民参加としてパブリックコメントのほかに、この懇話会も市民の意見として参考とさせていただくものであり、貴重な御意見をいただいているところである。パブリックコメントを実施する際には、学校教育に関する計画のため、学校やPTA連合会などにも周知しており、計画改訂時にも、学校などに広く周知していく予定である。

計画策定時から1番大きく変わったことは、コロナ禍で影響を受けたことである。活動の制約がある中で学校では苦労した部分もあったが、感染症対策の対応のほか、それまで実施することがなかったオンラインでの会議を実施するなど、できるようになったこともあり、学校現場のそういった経験についてもこの計画に反映している。

参加者

懇話会に参加して、それまで知らなかった学校教育基本計画について知ることができ、またいろいろな方の意見を参考に計画に反映していると思った。

幼稚園にはこのような基本計画はないため、学校の状況や取組についてよく理解できた。幼稚園では毎年入園児数が減少しており、少子化が現実問題である。幼稚園や保育所に入園した子どもが集団の中で成長していく姿を見て、保護者は子どもの成長を感じているが、学校に行っても、子どもの個性を大切に教育していると感じてもらうために、やはり一人一人を大切にする教育が大切なのではないかと思う。そうすると、それぞれの個性が発揮されお互いに刺激し合いながら成長し、学校が楽しいと思えるようになるのではと思う。

先ほどパブリックコメントに市民の関心がないという意見もあったが、多くの人に教育に関心を持ってほしいと思う。教員になりたい人が少なくなっているという話もあるが、先生たちも生き生きできる教育現場であることが大切であり、計画についてもあまりがんじがらめにならず、先生たちの個性も発揮できるような職場とすることが大切かと思う。

参加者

働き方改革については、これからは、先生が生き生きと働くことができる環境づくりが求められており、先生が良い状況であれば、十分に力を発揮することができると思う。

特別支援について、取組9では「特別支援学級・通級指導教育の開設」が主な事務事業として挙げられており、必要に応じて開設することは非常に大切と思うが、旭川市の設置率が全道平均と比較してかなり高い状況であることを踏まえると、やはりこの状況をどうしていくのかを改めて検討していく必要があると思う。パブリックコメントでもインクルーシブ教育システムについて意見があったが、就学基準を踏まえて適切に特別支援学級を設置、開設していくことが、これからは大事になってくると考えている。

今後は道教委としては通級指導教室を増やしていく方向と感じており、情緒学級の児童生徒の学びの場をどう考えていくかがこれから求められていくと思う。そのために特別支援学校も、センター的機能として学校への支援等を行っており、旭川市教育支援懇談会や当事者学校のコーディネーターの意見も参考にしながら、適切な開設を進めていってほしいと思うし、特別支援学校の専門性の向上も図っていなければならないと改めて感じている。特別支援教育の充実に向けて、旭川市と連携、協力して

いきたいと考えている。

参加者

自分は教育については素人で、自分の経験しかないが、コロナ禍が令和2年に始まり、現在はICTを活用しての教育に変化してきているのだと感じた。基本教育については概ね良いのではないかなと思う。

懇話会ではいじめ問題についても意見が出ていたが、家庭環境も一つの原因として考えられるのではないかなと考えており、教育方針や、親子の会話が少ないことのほか、ゲームを自由にさせた結果、コミュニケーションが乏しくなっているのではないかなと思う。家庭状況によっては幸せ感が少ない状況もあるのではないかな。

不登校について、不登校の理由は様々であることは以前説明していただいたので承知しているが、団体行動ができず人との付き合い方がわからないからなののではないかなと考えており、教員の指導、対応不足もあるのではないかなと思う。それぞれに事情はあると思う。

事務局

旭川市の出生数は20年前の小学校入学者数と比較すると約半減しており、少子化が進んでいることから、市としても大きな課題と認識している。

教員不足は大きな課題であり、待遇が改善され、志望者が増えてほしいと考えており、教員が子どもと対応する時間が増えて、余裕を持って対応できることにもつながると考えている。

旭川市の特別支援学級の児童生徒数が多いという意見があったが、特別支援教育が一般にも広く理解され、充実した教育を受けたいという保護者の意思も大きいかなと考えている。特別支援教育については、特別支援学校と連携し、検討していきたい。

いじめについては、いじめの認知件数は増加しているが、積極的な認知が増えていることによるもので、いじめ自体が増えている状況ではないと考えている。

不登校児童生徒数は、ここ数年で大幅に増えているが、年間通して30日欠席している場合も不登校であり、ほとんど学校に来ていないケースが約700人いる、という状況ではない。

参加者

保護者、地域の立場として意見を述べさせていただく。計画（改訂版）にもキャリア教育が触れられているが、地場の企業とのキャリア教育を充実していかないと、子どもたちが旭川に残らないのではないかなという危機感を持っている。市立大学の学部設置の話もあるが、旭川の子どもを増やしていかないと人口減少が進んでしまうと思う。先日、技術の教員がいないと報道されていたが、出前授業や体験で支援するなど、民間と行政で連携していけないかなと考えている。

コミュニティ・スクールについても、地域と学校、家庭が一体となっていく必要があると思うので、地域の皆さんが学校に来る機会を増やしていただけたらと思う。コロナ禍で、保護者が授業参観に行っても観覧するだけで、ほかの保護者と交流できない状況であったが、コロナが5類移行になり学校行事が増え、保護者間のコミュニケーションも大事という意見が出ている。地域の皆さんも公園などで子どもたちの様子を見ていただき、学校を応援する意見など、直接学校に寄せてほしいと思う。

参加者

改訂版は分かりやすい内容と思う。

子どもの居場所づくりをしている中で学校との関係の難しさを感じており、地域として学校と関わることは敷居が高いと感じていた。教員と居場所について話す機会があり、学校と居場所で、それぞれの認識や、やっていることに隔たりがあり、相互理解が大切であると感じた。子どもの状況は待たなしであり、地域住民も協力して子どもを地域の中で育てることを考えていかなければならないと感じている。子ども食堂は増えたが、単に食事を与える場ではなく、子どもが実際に行ける場所であることが大切であり、地域がどのように支援していくかを考えていかなければならないと思う。

参加者

現在子育ての情報をSNSで発信しており、今後も保護者と学校の橋渡しのような活動、保護者に届きやすい言葉での情報発信をしていきたいと考えている。

子どもの居場所の提供も週1回開催しており、学校以外でコミュニケーションが取

れる場、年齢や自分の地域、エリア以外で関われる場所づくりは大事だと感じている。コロナ禍を経験してきた子どもは、これまで接触しないように過ごしてきたため、コミュニケーションが苦手な子どもが増えており、学校以外で友達と関わりを持つ場の必要性を感じているので、今後も続けていきたいと思う。

いじめについても、多方面からの関わりが大切であり、自分の知っていることが正しいと思って子ども同士で衝突することもあるが、それぞれ各家庭のルールも違い、よし悪しではなく、互いの違いを認め合うことが必要だと考えている。自分は保護者と関わる機会が多いので、保護者についても互いの意見の尊重、想像力の底上げが必要と感じている。幸福度が上がるとコミュニケーション力が上がるので、親子の幸福度は大事だと思っている。

また、親子支援の活動をしている仲間同士はつながっているが、学校は敷居が高く、連携が難しいと感じている。育児中の教員と知り合うことで、民間での活動を知ってもらうことができたので、そういった活動で今後の連携につなげていけたらと考えている。

事務局

キャリア教育については、コロナ禍により地域等と連携した取組ができなくなってしまった状況があったが、今後は取組を充実させていきたい。学校では、コミュニティ・スクール等を通じた活動の中で、地域で職場体験を受け入れてくれる企業等が増えたところもあり、ふるさとへの愛着を深めるという点でも進めていく必要があると考えている。

学校としては地域の協力は有難いことなので、学校の敷居が高いと感じることについては、コミュニティ・スクールなど様々な活動で地域との連携、ネットワークが広がり、相互理解が深まっていけたらと思う。また、行き場のない子どもの居場所があることも、学校として、有難い取組である。

進行役

先ほども意見があったが、技術の教員免許を持っている教員が少ない状況があり、旭川はものづくりの街なので、ぜひ旭川で技術の教員を増やしてほしいと思う。

3回の会議を通して、全体的に、第2期学校教育基本計画の推進について応援する意見が多かったと感じている。計画を推進する上で、学校と家庭、地域が連携し、市教委の支援も必要であると思うので、皆さんそれぞれの立場で連携していただければと思う。

## (2) その他

事務局

本日いただいた御意見を踏まえて、3月末に計画を改訂する予定である。決定後に皆様にお知らせする。

## 3 閉会

事務局

懇談会の閉会に当たって、教育長を代理し、品田学校教育部長から挨拶を行った。以上で、第3回学校教育基本計画懇話会を閉会する。